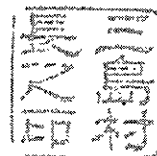


三 経 第 866 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

鹿児島県三島村
三島村長 大 山 辰 夫



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号により依頼のあった、標記のことについて、別紙のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

鹿児島県三島村

「道路特定財源の一般財源化」が閣議決定されたうえで、今後の道路行政を考えた時、類々ある社会資本整備で根幹をなす道路整備は地方にとって今だ充分とはいえないと考えています。又、無駄を排除し、真に必要な道路を作るべきであります。

国道・都道府県道・市町村道・高規格道等も重要であると考えますが、我々全国の離島自治体にとって、真に必要な道路と言えば航路であります。島内の道路は本土と唯一継ぐ、この一本の航路（道路）によって生きた道となるのです。

人口減少・少子高齢化・燃料高騰等で全国の航路、事業者は瀕死の危機に直面しています。国の防人としての役割を果たしている全国の離島住民の生命線であるこの一本の道路（航路）を恒久的に確保することこそが、真に必要な道路の意味であると強く主張します。現自民党幹事長であられる細田先生も委員会質疑のなかで航路は道路と発言され、党の公式文書にも、初めて航路は道路と明記されています。そこで道路法のなかに航路は道路という解釈の出来る文言を明記して頂き、全国の補助航路の予算総額確保のためにも特定財源を投入して頂きたいと思います。国民の安心、安全のための国土防衛、保全、資源確保のためにも、全国離島住民の生命線を国が責任をもって守ることに対し、国民は充分理解をして頂けるものと確信します。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

鹿児島県三島村

○現状

本村の道路は、県道・村道で48路線がある。

地勢的に急坂が多く狭小な島域内には日常生活圏と産業活動の一体的形成のため、道路網を整備して土地資源の効果的な利用を図っている。

これらの道路は逐次改良や舗装を施してその機能は向上はしているが、地勢的な条件から路面の劣化が進んでいる。

また、これらの道路は島内における、生活及び生産活動の道路網である。

村の産業、医療、教育、観光等々全ての村民生活を支えている県本土との交通手断は、この道路と本土とを唯一結ぶ、村営による週三便の定期船の運航のみである。

○課題

各島内の道路の整備については、日常的な交通への支障は解消されてきたが、整備後相当の年数が経過している路線もあり、舗装面の劣化が大きく安全な通行に支障を来しているところもある。よって今後、維持補修と管理の徹底を図る必要がある。しかしながら極小自治体の厳しい財政状況では困難を来している。よって、道路特定財源の一般財源化による地方への財政措置を講じていただきたい。

また、本土と隔絶した離島にとって真に必要な道路と言えば航路（海路）であります。

人口減少や少子高齢化の進む小離島群にとって、産業の振興はもとより、医療の確保や教育の振興、観光の振興等々をはかるためには、村民にとっては生命線であるこの一本の航路（道路）の存続が恒久的に確保され、地域住民の安心、安全な生活環境を構築できるものであります。

更に、国民の安心・安全のための国土防衛、保全、資源確保など国の防人としての役割を果たしている小離島にとって、生命線である航路を道路として位置づけの下、予算の確保が必要であります。

三島村は、三つの小離島群から成る、県下で最も小さな自治体である、昭和35年の1,363人の人口をピークに年々減少し、現在は、400人余りの人口となっている。

また、併せて、少子・高齢化も顕著であり、今後も人口減少及び少子・高齢化が進行していくものと思われる。

村の航路(道路)の現状は、鹿児島市～三島村間を週3便運航しているが、この航路の特異性(小離島群で需要に乏しい)から、現在まで民間による運航はない。

そのため、村は自ら船舶を建造し、村民の足の確保と生活を維持してきた。しかし、現在の航路体系では、村民や利用者の利便性向上に大きな障害となっている。

また、村は航路の経営安定化のため、ヨットレースなど様々なイベントを開催し、収益改善の努力を続けている。

村は、厳しい財政状況下であるが、産業の振興(黒毛和牛の生産)、中核病院からの医師常駐による無医村の解消、しおかぜ留学(山村留学)制度による教育の振興、自然環境を活用した観光振興など、これからの村の活性化に向けて取り組んでいる。

村は、観光振興施策として、村の自然を活かした体験型観光、アジア初のジャンベスクール開校や漁業体験船の整備、遊歩道の整備やマップの製作を行い、また、青少年の研修施設の誘致も行い、これらの施設を活用して都市部の子どもたちの体験学習や、村への交流人口増加に努めている。

しかし、これらの観光プログラムも交通アクセスが限られていることから、集客に限界が生じており、新たな交通体系ができれば、観光客の誘致が可能となり、新たな観光プランの創出や村民の生活安定と利便性向上が図られるものと考えている。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

鹿児島県三島村

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
	特になし		